

「片瀬・鵜沼・辻堂の地名に迫る！」

藤沢地名の会 布施克彦

第4回:辻堂の地名について

(2024年7月24日放送)

Q1 「辻堂」にはどのような小字があるのか

旧大字辻堂には26の小字。東海道線の北側にもはみ出す。東は引地川、西は茅ヶ崎市の間。鵜沼以上の砂地、海岸近くに大規模な砂丘地帯、江戸、明治は砲術演習、海軍陸兵隊演習地、戦後1959年まで米軍接收演習地

Q2 それぞれの小字の由来について

(大砂丘地帯に付けられた地名:大ヤゲン・砂山・砂場・高砂・長久保など)、砂場、高砂、大ヤゲンなど南部の砂地無人地帯。大ヤゲン(海浜公園、湘南工大)の意味。低いところ(長久保)

(僅かな水利を利用した農業の営みの痕跡:塚田・堂面・一ノ坪・弥平田・土打など)
鵜沼以上に農耕に向かない。僅かな湿地など利用した農業の営み。一ノ坪(元町4、5丁目)、堂面(一ノ坪南側、大平台の北側)、土打(辻堂駅東側線路両側)、塚田(辻堂駅南西、辻堂図書館あたり)、南側にも弥平田(OKストアあたり)
新たに開墾(大荒久:サステナブルスマートシティSST)

(平坦な辻堂にあった山(砂丘)の地名:浜見山・後山・高山)
高いところは「山」=高山(フィルモール)、後山(宝珠寺、天王山)、砂山(団地、下水処理場、海浜公園西側)、浜見山(東海岸4丁目)
漁業と浜見山

(引地川の流路変遷を物語る地名:地蔵袋)
引地川流路変遷、木又地蔵と地蔵袋(東海岸2丁目)